（別添２－１）
（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

設　置　計　画　の　概　要

事項	記入欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	学部の学科の設置
フリガナ 設置者	ｺｸﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸﾎｳｼﾞﾝ　ｶｶﾞﾜﾀﾞｲｶﾞｸ 国立大学法人　香川大学
フリガナ 大学の名称	ｶｶﾞﾜﾀﾞｲｶﾞｸ 香川大学（Kagawa University）
新設学部等において養成する人材像	〔医学部〕 （基本理念） 1　世界に通ずる医学、看護学及び臨床心理学の教育研究を目指す。 2　人間性の豊かな医療人及び心理援助者、並びに医学、看護学及び臨床心理学の研究者を養成する。 3　医学、看護学及び臨床心理学の進歩並びに人類の福祉に貢献すると共に地域の医療及び心理援助の充実発展に寄与する。 (臨床心理学科) ①　養成する人材像 1　人間に対する高い倫理性と深い思考力をもった人間性豊かな心理援助者 2　自ら課題を探求し、それを解決できる基本的な専門知識と技能、科学的思考力と共感的理解力を備えた心理援助者 3　多職種連携・協働ができる資質を持ち、心理援助の実践を通して地域住民の福祉の充実発展に寄与すると共に、心理援助の発展に貢献する心理援助者 ②　習得させる能力等 1　人間と人間を取り巻く環境についての幅広い基礎知識の上に、心理学・臨床心理学の専門的知識と技能を修得する。 2　心理学・臨床心理学に加えて医学の基礎を学び、医療・保健分野を中心とした実習経験を積むことで、心理学・臨床心理学と医学を相互に関連付ける基本的技能と能力を修得する。 3　地域の相談者に対して傾聴する技能、共感的なコミュニケーションの技能、心の問題を説明する上での心理学・臨床心理学上の実証的な研究方法を修得する。 4　心理臨床における責任感と倫理観を身につけ、さまざまな人間の心の問題を理解し、多職種連携・協働の観点を踏まえつつ、適切な援助が出来る基本的技能と能力を修得する。 ③　卒業後の進路 公認心理師・臨床心理士を目指すために、大学院進学を主たる進路とする。 家庭裁判所調査官、少年鑑別所等の法務技官（心理）、児童相談所及び地方自治体等の行政機関（心理）、障害児・者施設指導員、児童養護施設等の児童指導員等 (医学科) ①　養成する人材像 1　幅広い教養と高い倫理感を備えた人間性豊かな医師・医学研究者 2　自ら課題を探求し、それを解決できる高度な専門知識と技術、科学的思考力、判断力をもった医師・医学研究者 3　地域に根ざした医療人として地域医療に貢献し、かつ地域における医学・医療の中核としての指導的役割を担うことのできる医師・医学研究者 ②　習得させる能力等 1　医学に関する問題を的確に把握し、その問題を自主的、積極的かつ総合的に解決するために必要な基本的知識及び基本的技術を修得する。 2　生涯を通じて自己学習する基本的態度・習慣を身につけ、自らを正しく評価できる客観的判断能力を養う。 3　医療を単に疾病の治療として把握するにとどまらず、予防・リハビリテーションをも含む包括的なものとしてとらえ、その背景にある精神的・社会的諸問題と関係づけて考える総合的な視野を養う。 (看護学科) ①　養成する人材像 1　生命の尊重を基本として、人間に対する高い倫理性と深い思索力をもった看護職者 2　保健・医療・福祉の進展に柔軟に対応できる科学的判断力と専門技術を備えた看護職者 3　幅広い視野を持ち、地域保健医療や国際貢献の発展に寄与する看護職者 ②　習得させる能力等 1　看護の対象である人間としての権利と自由を尊重し、思考力、判断力、行動力を高めることができる能力を養う。 2　看護の問題を総合的に判断し、解決できる基本的な知識及び看護実践能力を養う。 3　生涯を通じて自己啓発し、看護を批判的に分析し、建設的・創造的に発展させることができる基礎的能力を養う。 4　看護活動を通して教育、研究、管理を担い、及び国際貢献できる能力を養う。
	〔教育学部〕 ①　養成する人材像 豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた課題探求能力を備え、国際的に活動できる人材を育成する。 ②　習得させる能力等 学校教育教員養成課程にあっては、国際化、情報化、高度化、複雑化などの社会の変化に伴う新たな教育課題や教育問題に対応して、教育職員免許法に対応した授業科目の改善に加えて、コミュニケーション能力や教育相談、介護体験に関する科目など新たな共通科目を設け、1年次から4年次までにわたっての実践的・事例的研究をもとに教育実践力を高める。 人間発達環境課程にあっては、現代社会における広い意味の教育者・発達支援者としての共通の資質・能力に加えて、それぞれのコースの目的に対応して、社会の幅広い教育需要に応えるために、社会との接点を設けて、ボランティア活動や実体験を取り入れる。

既設学部等において養成する人材像	(人間発達環境課程) ① 養成する人材像 人間の生涯にわたる発達過程と人間を取り巻く環境に関するさまざまな問題を総合的に探求し、国際化、高齢化の進む生涯学習社会を支えることの出来る人材を育成する。 ② 習得させる能力等 現代社会における広い意味での教育者・発達援助者としての共通の資質・能力の育成 ③ 卒業後の進路 家庭裁判所調査官、少年鑑別所等の法務技官(心理)、児童養護施設等の児童指導員等、大学院進学、 民間企業等、公務員、大学院進学 (コース別) (発達臨床コース) ① 養成する人材像 現代社会においてより重要となっているカウンセリングマインド、福祉マインドをもった人材の養成 ② 習得させる能力等 子どもから高齢者に至る生涯規模での発達について臨床心理的観点と社会福祉的観点から学習する。臨床心理士の免許となる授業科目とともに生涯発達を福祉的観点から考察する授業科目を準備している。また、これらの発達についての総合的な学習とともに、老人福祉施設や青少年施設への学習を通じて問題解決能力の育成をはかる。 ③ 卒業後の進路 家庭裁判所調査官、少年鑑別所等の法務技官(心理)、児童相談所及び地方自治体等の行政機関(心理)、障害児・者施設指導員、児童養護施設等の児童指導員等、大学院進学 (人間環境教育コース) ① 養成する人材像 変動が激しく、価値観が多様化する社会にあって、自ら問いを発見し、解決策を見いだしていく資質を養い、豊かで新たな環境づくりに関わる人材 ② 習得させる能力等 家族、共同体、社会、伝統、自然など様々な環境と人間のあり方を研究する。関係領域の基礎的な学問を学ぶとともに、複数の学生が教員と一体になって共通のテーマ(環境創造、文化的活動による地域活性化、人間探求、メディア環境など)に取り組む協働プロジェクトを重視する。知識やツールは時代とともに古くなるが、それらの学習を通じて、たえず研鑽できる自己形成を目指す。 ③ 卒業後の進路 民間企業等、公務員、大学院進学 (国際理解教育コース) ① 養成する人材像 国際社会の文化的・社会的特質に関する十分な理解を基礎に、21世紀のあるべき国際社会を創造する ための教育実践力のある人材 ② 習得させる能力等 教室での原書講読や、大学外でのフィールドワークなど多様な演習・実習形式の授業を通した実践的カリキュラムのもとに、理想的な多文化社会のあり方を考察し、その基礎となる異文化間コミュニケーションの理念と技術を学習する。最終的には、自らの力で国際社会において活躍できる能力を持つことを目標とする。 ③ 卒業後の進路 民間企業等、公務員、大学院進学
新設学部等において取得可能な資格	【医学部臨床心理学科】 認定心理士 ①民間資格 ②資格取得可能(卒業後に申請) ③卒業要件単位中に認定科目が含まれる。
既設学部等において取得可能な資格	【人間発達環境課程】 (発達臨床コース) 取得できる資格なし。 (人間環境教育コース) 中学校教諭1種免許状(社会) (地理) 高等学校教諭1種免許状(地理歴史) (公民) (理科) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。 (国際理解教育コース) 中学校教諭1種免許状(国語) (英語) 高等学校教諭1種免許状(国語) (英語) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授
	医学部〔Faculty of Medicine〕	臨床心理学科〔Department of Clinical Psychology〕	4	20	－	80	学士（臨床心理学）	文学関係、教育学・保育学関係、医学関係	平成30年4月	教育学部人間発達環境課程	4	4
										新規採用	4	2
										計	8	6

既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授
	教育学部	人間発達環境課程（廃止）	4	40	－	190	学士（教養学）	文学関係、教育学・保育学関係、社会学・社会福祉学関係	平成10年4月	医学部臨床心理学科	4	3
										学校教育教員養成課程	3	1
										退職	8	8
										計	15	12
										計	0	0

【備考欄】

教育学部　　（廃止）

人間発達環境課程　　（△40）　※平成30年4月学生募集停止（3年次編入学は、平成32年4月学生募集停止）

経済学部（改組）

経済学部（改組前）	入学定員
経済学科（昼間）	100
経営システム学科（昼間）	105
地域社会システム学科（夜間主）	75
（昼間　3年次編入）	(20)
経済学科（夜間主）	6
経営システム学科（夜間主）	8
地域社会システム学科（夜間主）	6
計	300(20)

経済学部（改組後）	入学定員
経済学科（昼間）	240
経済学科（夜間主）	10
（昼間　3年次編入）	(20)
計	250(20)

※平成29年4月事前伺い予定

工学部（改組）

工学部（改組前）	入学定員
安全システム建設工学科	60
電子・情報工学科	80
知能機械システム工学科	60
材料創造工学科	60
（3年次編入学）	(20)
計	260(20)

創造工学部（改組後）	入学定員
創造工学科	330
（3年次編入学）	(20)
計	330(20)

※平成29年4月事前伺い予定

大学院農学研究科（改組）

農学研究科（改組前）	入学定員
生物資源生産学専攻	25
生物資源利用学専攻	25
希少糖科学専攻	10
計	60

農学研究科（改組後）	入学定員
応用生物・希少糖科学専攻	60
計	60

※平成29年4月事前伺い予定

希少糖科学専攻	10
計	60

計	60

（別添２－２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（医学部臨床心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
主題科目	主題A「人生とキャリア」		人生とキャリア	1･2①②③	1			○								兼16	
			小計（1科目）		1	0	0									兼16	
	主題B「現代社会の諸課題」		歴史のなかの21世紀	1･2①②③④		1		○								兼8	
			グローバル社会と異文化理解	1･2①②③④		1		○								兼25	
			情報とコミュニケーション	1･2①②③④		1		○								兼6	
			文化と科学・技術	1･2①②③④		1		○								兼22	
			生命と環境	1･2①②③④		1		○								兼19	
			人間と健康	1･2①②③④		1		○			2					兼32	
			小計（6科目）		0	6	0	－			2	0	0	0	0	兼108	
	主題C「地域理解」		地域理解（基礎）	1②④	1			○								兼2	メディア
			地域理解（講義）	1･2①②③④		2		○								兼15	
			地域理解（実践）	1･2①～②③～④		2		○								兼20	
			小計（3科目）		1	4	0	－			0	0	0	0	0	兼30	
学問基礎科目			書物との出会い	1･2①～②		2		○								兼15	文系科目
			自然科学基礎実験	1･2③～④		2		○								兼5	文系科目
			哲学	1･2①～②③～④		2		○								兼2	文系科目
			論理学	1･2①～②		2		○								兼1	文系科目
			倫理学	1･2①～②		2		○								兼1	文系科目
			芸術	1･2①～②		2		○								兼3	文系科目
			心理学	1･2①～②③～④		2		○				2				兼3	文系科目
			社会学	1･2①～②③～④		2		○								兼3	文系科目
			教育学	1･2①～②	2			○								兼1	文系科目
			歴史学	1･2①～②③～④		2		○								兼3	文系科目
			文学	1･2③～④		2		○								兼1	文系科目
			言語学	1･2③～④		2		○								兼1	文系科目
			法学	1･2①～②③～④		2		○								兼3	文系科目
			政治学	1･2③～④		2		○								兼1	文系科目
			経済学	1･2①～②		2		○								兼1	文系科目
			経営学	1･2③～④		2		○								兼1	文系科目
			数学	1･2①～②③～④		2		○								兼11	理系科目
			地学(講義)	1･2①～②		2		○								兼6	理系科目
			地学(実験)	1･2③～④		2				○						兼3	理系科目

全学共通科目			物理学(講義)	1･2①～②③～④		2		○									兼8	理系科目
			物理学(実験)	1･2①～②③～④		2				○							兼6	理系科目
			化学(講義)	1･2①～②③～④		2		○									兼4	理系科目
			化学(実験)	1･2①～②		2				○							兼3	理系科目
			生物学(講義)	1･2①～②③～④	2			○									兼13	理系科目
			生物学(実験)	1･2①～②		2				○							兼2	理系科目
			地理学	1･2③～④		2		○									兼1	理系科目
			統計学	1･2①～②		2		○									兼1	理系科目
			情報科学	1･2③～④		2		○									兼2	理系科目
			医学	1･2③～④		2		○									兼16	ｵﾑﾆﾊﾞｽ 理系科目
			看護学	1･2①～②	2			○									兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ 理系科目
			小計（30科目）		6	54	0				0	2	0	0	0	兼116	
	コミュニケーション科目	大学入門ゼミ	大学入門ゼミ	1①～②	2				○			1					
			小計（1科目）		2	0	0				0	1	0	0	0	兼0	
		情報リテラシー	情報リテラシー	1①～②③～④	2			○								兼1	
			小計（1科目）		2	0	0				0	0	0	0	0	兼1	
		既修外国語（英語）	Communicative English Ⅰ	1①～②	2			○								兼22	
			Communicative English Ⅱ	1③～④	2			○								兼22	
			Communicative English Ⅲ	2①～②	1				○							兼28	
			Communicative English Ⅳ	2③～④	1				○							兼28	
			Academic English Ⅰ	3①～②		1			○							兼3	
			Academic English Ⅱ	3①～②		1			○							兼4	
			小計（6科目）		6	2	0				0	0	0	0	0	兼37	
		初修外国語	ドイツ語Ⅰ	1①～②		2			○							兼8	
			ドイツ語Ⅱ	1③～④		2			○							兼8	
			ドイツ語Ⅲ	2①～②		1			○							兼5	
			ドイツ語会話Ⅲ	2①～②		1			○							兼1	
			フランス語Ⅰ	1①～②		2			○							兼4	
			フランス語Ⅱ	1③～④		2			○							兼4	
			フランス語Ⅲ	2①～②		1			○							兼2	
			フランス語会話Ⅲ	2①～②		1			○							兼2	
			中国語Ⅰ	1①～②		2			○							兼6	
			中国語Ⅱ	1③～④		2			○							兼7	
			中国語Ⅲ	2①～②		1			○							兼4	
			中国語会話Ⅲ	2①～②		1			○							兼1	
			韓国語Ⅰ	1①～②		2			○							兼3	
			韓国語Ⅱ	1③～④		2			○							兼3	
			韓国語Ⅲ	2①～②		1			○							兼2	
			韓国語会話Ⅲ	2①～②		1			○							兼1	
			小計（16科目）		0	24	0				0	0	0	0	0	兼24	

		健康・スポーツ実技	健康・スポーツ実技	1①～②③～④	2					○						兼16	
			小計（1科目）		2	0	0				0	0	0	0	0	兼16	
	高度教養教育科目・広範教養教育科目	高度教養主題科目	防災ボランティア講座	2①～②		2		○								兼4	
			防災ボランティア実習	2③～④		2				○						兼3	
			医療と法	2③～④	2			○								兼2	
			海外体験型異文化コミュニケーションⅡ	1･2･3･4②		1		○								兼3	
			サーバント・リーダー養成入門Ⅱ	1･2･3･4②		1		○								兼2	
			知プラe科目　有機化学概論	1･2･3･4①～②		2		○								兼1	メディア
			知プラe科目　海洋基礎生態学	1･2･3･4①～②		2		○								兼1	メディア
			小計（7科目）		2	10	0				0	0	0	0	0	兼14	
		上級英語	上級英語（Study Abroad）	1･2･3･4③～④		2				○						兼3	
			小計（1科目）		0	2	0				0	0	0	0	0	兼3	
		西洋古典語	ラテン語初歩　Ⅰ	1･2･3･4①～②		1			○							兼1	
			ラテン語初歩　Ⅱ	1･2･3･4③～④		1			○							兼1	
			小計（2科目）		0	2	0				0	0	0	0	0	兼1	
		広範教養主題科目	知プラe科目　大学の知の活用	1③～④		2		○								兼1	メディア
			知プラe科目　行動統計学入門	1③～④		2		○								兼1	メディア
			知プラe科目　自動車概論	1③～④		2		○								兼1	メディア
			知プラ科目　大学生のための『安全・安心』の基礎講座	1③～④		2		○								兼1	メディア
			小計（4科目）		0	8	0				0	0	0	0	0	兼4	
専門基礎科目	基幹科目	心理系	心理学概論	1①～②	2			○			4	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			心理学研究法	3①～②	2			○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			心理統計法	2①～②	2				○			1					※講義
			心理学基礎実験Ⅰ	2①～②	2					○		1					
			心理学基礎実験Ⅱ	2③～④	2					○		1					
			臨床心理学	2①～②	2			○			1						
		医学系	早期体験学習（多職種連携）	1③～④	2					○	1					兼1	
			医学概論	1③～④	2			○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	関連科目		解剖学入門	2①	1			○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生理学入門	2②	1			○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生化学・分子生物学入門	2①	1			○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			小計（11科目）		19	0	0	－			6	2	0	0	0	兼9	
			学習心理学	3③～④	2			○				1					
			認知心理学	2③～④	2			○				1					
			生理・神経心理学	3①～②	2			○			1						
			生涯発達心理学	2①～②	2			○			1						
			青年心理学	3③～④	2			○			1						
			障害者(児）心理学	3①～②	2			○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			教育・学校心理学	2③～④	2			○								兼1	
			対人関係論	3③～④	2				○		2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ

専門科目	基幹科目	心理系	家族心理学	2①～②	2			○				1						
			社会・地域・集団心理学	2③～④	2			○				1						
			福祉心理学	3①～②	2			○			2						兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			司法心理学	3①～②	2			○									兼1	集中
			産業心理学	3③～④	2			○				1						
			心理アセスメントⅠ	2③～④	2					○	1							※講義
			心理アセスメントⅡ	3①～②	2					○	1							※講義
			人格心理学	2①～②	2			○			1							
			医療心理学	3③～④	2			○			3							ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			カウンセリング概論	2①～②	2			○			1							
			人間性心理学	3③～④	2			○			2	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			心理師実践職能論	2③～④	2			○			4	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※実験実習
			心理面接演習 Ⅰ	2③～④	2				○		1							
			心理面接演習 II	3①～②	2				○		2							
			心理臨床実習	3通	2					○	6	2						
		社会学系	社会医学・関係行政論	2③～④	2			○									兼1	
			社会福祉論	2①～②	2			○									兼1	
		医学系	心理援助職のための内科的疾患概説	3①～②	2			○			1							
			発達小児科学	3③～④	2			○									兼6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			精神医学	3①～②	2			○			1							
			心身医学	3③～④	2			○			1							
			生命倫理学	2②	1			○			1							
			チーム医療実習	4通	4					○	2							
	関連科目		病理学・免疫学概説	2③	1			○									兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			微生物学・医動物学概説	2④	1			○									兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			災害医学・緩和ケア	3③	1			○									兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			医療薬理学	3④	1			○									兼1	
		教育系	教育原論	2･3･4①～②③～④		2		○									兼1	
			障害児心理学	2･3･4③～④		2		○									兼1	
	課題研究	ゼミ・卒業研究	臨床心理学基礎研究Ⅰ	3①～②	2				○		6	2						
			臨床心理学基礎研究Ⅱ	3③～④	2				○		6	2						
			臨床心理学研究Ⅰ	4①～②	2				○		6	2						
			臨床心理学研究Ⅱ	4③～④	2				○		6	2						
			卒業研究	4通	4				○		6	2						
			小計（42科目）		79	4	0				6	2					兼24	
合計（132科目）					120	116	0				6	2	0	0	0		兼292	

学位又は称号	学士（臨床心理学）	学位又は学科の分野	文学関係、教育学・保育学関係、医学関係

Ⅰ．設置の趣旨・必要性

（１）臨床心理学が係わる社会的・地域的課題

現代社会は、幼児虐待、就学中のいじめの問題や不登校、学習困難児への対応、青年期以降の引きこもり、非正規雇用の増加と就労に関わるストレス、年金の引き下げによる退職後の生活不安、生活習慣病をはじめ様々な疾患に伴う不安、がん患者の緩和ケア、高齢化に伴う認知症患者の増加など、生まれ落ちてから死に至るまで、こころの支援を必要とする局面が増加している。

実際、スクールカウンセラーの本格的な導入をはじめ、度重なる大規模災害による被災者の心のケアの継続や、終末期医療における緩和ケアへの心理援助職の参入など、多様な領域における心理援助職の専門活動への社会的要請が増大している。このように心理的援助が必要とされる領域は、健康医療、福祉、教育、産業と拡大を見せている。

香川県に目を転じると平成26年の人口高齢化率は、29.2%であり、全国平均の26.7%より高値となっており、高齢者に対する心理的援助は他の地域以上に大きな課題である。

また、認知症等の高齢者の問題にとどまらず、香川県の施策において心理の知識・技能が必要と考えられる項目としては、不妊や不育症で悩む夫婦等への相談・支援、発達障害児やその家族に対する相談支援・発達支援、スクールカウンセラー等の活用推進、いじめ等に巻き込まれた子どもの心のケア、緩和ケアチームの整備、がん治療の充実、女性への暴力を受けた被害者のカウンセリング等があげられる（新・せとうち田園都市創造計画）。

さらに、香川県からは、「心の健康づくり等を推進するため、地域や事業所、学校などの相談体制を充実するとともに、保健医療や福祉、教育等の幅広い分野で、心理の専門職として、心の問題に関する相談や助言を行うことができる人材の育成・確保が急務」として、本改組計画への支持が述べられている（要望書「地域活性化に向けた機能強化を目指した大学改革構想の実現について」香川県　平成28年12月22日）。

（２）医療における臨床心理学の役割の増大

臨床心理学と医学・医療の関係に注目すると、近年、両者の相互補完的な関係での発展が見られる（図１）。また、医療の急速な高度化・複雑化、先端医療の著しい進展から、慢性疾患、進行性疾患などの療養に伴う心理的問題も増加している。従って、精神科（精神障害）や心療内科（心身症）に限らず、内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、産婦人科をはじめ医療・保健に関する全分野にまたがって心理学・臨床心理学が必要とされている。

さらには、緩和ケア、周産期医療、遺伝子医療、糖尿病医療、高齢者ケアなどを含め、チーム医療の中で心理学・臨床心理学に基づいた援助がますます求められている。

香川大学

臨床心理学の発展と現状

	心身二元の時代	心理学と医学との接近	がん医療の時代 脳科学の時代 災害対応 人間性の重視
臨床心理学の変遷	個人の心の内的世界に焦点を置く立場 ・深層心理学 ・個人療法（カウンセリング）	行動心理学の芽生え （心理学を科学とする位置づけ） ↓ 行動変容の心理学	・緩和ケアへの心理学の参画 ・脳の働きを更に科学的に解明 ・被災者へのカウンセリング ・人間性の尊重
疾病構造の変化	身体疾患の主体は感染症	身体疾患の主体は感染症から生活習慣病へ ↓ 行動変容の必要性	・高齢化に伴うがん患者の増加 ・Brain Imagingの発展 ・自然災害の多発 ・個人の決定権の尊重

図１　臨床心理学の発展と現状

（３）香川大学における心理学・臨床心理学教育

（ア）新課程（人間発達環境課程）における実績

香川大学における臨床心理士等を含めた心理援助職養成のための学部レベルでの教育課程としては、教育学部人間発達環境課程（同課程中の発達臨床コース）がその役割を果たし、心理学・臨床心理学を学んだ学生を毎年30名程度輩出してきた。

教育学部にありつつも、新課程であるがゆえに、教育学分野に特化することはなく、心理学・臨床心理学や、社会学・社会福祉学といった教員養成課程とは異なる学問分野の教育内容を、一定の体系性を持ったカリキュラムとして編成することが可能であった。

発達臨床コースにおいては、「生涯発達心理学」、「学校教育心理学」、「学習心理学」、「乳幼児心理学」、「青年心理学」、「性格心理学」、「社会心理学」、「障害児心理学」など人間理解の基礎となる心理学の諸領域について幅広く学習するとともに、「心理学実験Ⅰ」、「心理学実験Ⅱ」、「教育統計学」などの科目により心理学の研究法を習得している。また、「臨床心理学」、「カウンセリング概論」を通して、臨床心理学や心理療法の理論や概念について学んでいる。そのような理論的学習に続いて、「臨床心理学演習Ⅰ」、「臨床心理学演習Ⅱ」、「臨床心理学実習Ⅰ」、「臨床心理学実習Ⅱ」などでは、グループワークや応答訓練、カウンセリング・ロールプレイなどを通して、コミュニケーションのあり方やカウンセラーの応答・態度について体験的に学習している。さらに、「心理検査Ⅰ」、「心理検査Ⅱ」では代表的な心理検査を実施し、検査方法や結果の整理・分析の方法を習得している。このような学内での学習を基盤として、「発達臨床実践研究Ⅰ」（保育所、高齢者施設、障害者施設など）、「発達臨床実践研究Ⅱ」（児童養護施設、児童発達支援センター、適応指導教室など）では、学外の施設において実習に取り組んでいる。対象者との直接の関わりを通して、対象者の理解の仕方、コミュニケーションのあり方、カウンセリング・マインドなどについて体験的に学んでいる。

以上のようなカリキュラムは、臨床心理士資格の基礎教育となる授業科目としても整備されており、卒業生のうち、５～10人程度は心理系大学院に進学し、修了後、心理援助職に就いている。大学院へ進学せず行政機関や民間企業に就職した場合でも、心理学・臨床心理学の知識を習得し、対人的なコミュニケーションの実習体験をもつことによって、卒業生は、地域住民や顧客の心に寄り添い、対応できる能力を有しており、このことで就職先からも評価されている。

以上より、人間発達環境課程（発達臨床コース）での人材養成は、下記の点で対応できている。

１）心理学及び臨床心理学の体系的な学びの提供及びカウンセリング・コミュニケーションに関する演習体験の提供
２）教育と福祉に関する基礎的知識の習得

これらの点は、今後も継承する必要があるが、人間発達環境課程は平成30年度から募集を停止する予定であり、県内外の高校生のニーズに応えるためにも引続き本学で心理系の学習の場を提供する必要がある。

（イ）教育学部における心理学・臨床心理学教育とその限界

しかし、社会的・地域的な動向を鑑みると、心理援助職の養成のあり方を改めて検討する必要があるとも考えられる。そこで、本学では、香川県内で働く、現に心理援助職にある者を対象にしたアンケートを実施した。結果を図２に示す。

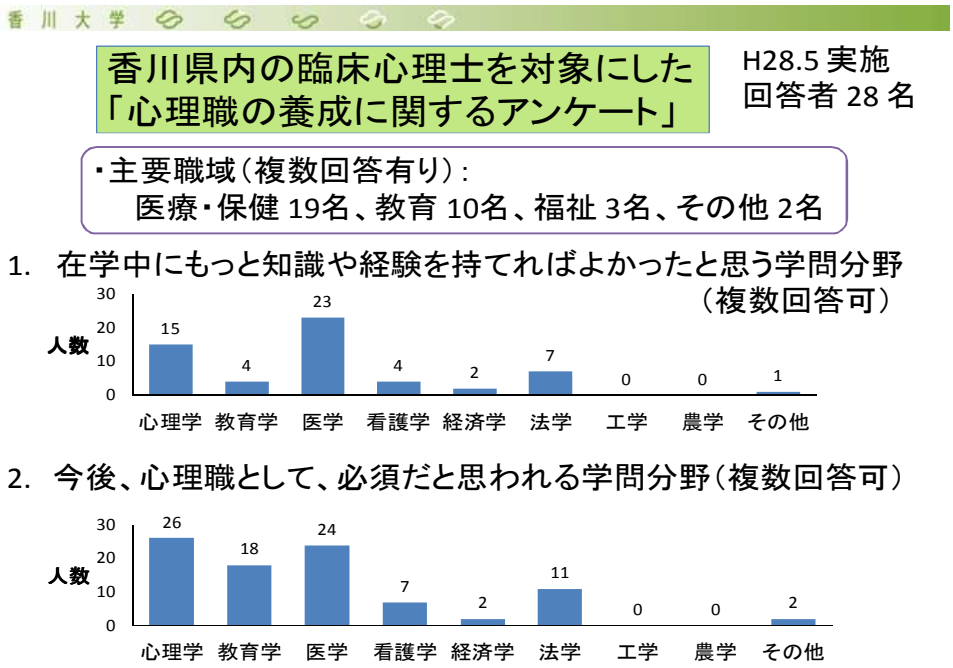

図2 香川県内の臨床心理士を対象にした「心理職の養成に関する」アンケート結果

対象者（有効回答数28名）の職域は、医療・保健(19名)が最も多く、次いで教育（10名）である。産業や司法・矯正の職域からの回答も見られた。
心理援助職の活動領域の観点からすると、臨床心理士をはじめとする心理援助職の領域別従事者数は、医療・保健領域が41.9%を占め最も多く、教育領域（36.0%）、大学・研究所領域（25.3%）、福祉領域（18.7%）がそれに続くという全国調査の結果と、本学が実施した香川県での調査結果は同じ傾向が見られる。
本アンケートに対する回答では、心理援助職の現場で最も必要とされる学問分野（心理学を除く）として、「医学」が挙げられた。また、医療・保健職域の現場にある者が、「医学」と回答するだけに留まらず、教育の職域を含め、各職域の現場にある者から「医学」の知識が必要であるとの回答が見られた。

先述の社会的・地域的課題や医療等の現況、アンケート調査結果を踏まえ、人間発達環境課程（発達臨床コース）を心理援助職の養成課程（学部レベル）として捉え直すと、その実績への評価のみならず、限界を挙げることができる。
まず、医学の素養の涵養が必要とされているという結果からは、教育領域においても、児童・生徒や家族への心理的援助に加えて、発達障害や身体症状などについての医学的知識を有し、さらには地域の専門機関や医療機関と適切に連携できるスクールカウンセラーが求められていると思われる。他の領域においても、同様に、精神医学的な知識や医療現場での臨床経験が求められていると推察される。
さらにいうならば、現状では心理援助職を目指す学生が医療に関連した相談業務に触れる機会に乏しいことを挙げることができる。大学院修了後、医療領域へ就職する割合が高いにもかかわらず、医療現場における心理職の働きや役割、チーム医療・多職種連携の意義を実感し、理解する学習機会が乏しい。また、医療倫理を学ぶ機会が少ないことも課題となる。さらに、精神疾患や障害をもつクライエントについての知識の修得や経験を積む機会が乏しいために、就職してからも精神疾患や障害の見立てに苦労する現状があるとも想像される。

現行の（香川大学の）養成課程は、実習・演習を含めた関連領域の授業科目は教育学関係が中心で、医学関係は選択科目の「医学概論」など、限定的である。人間発達環境課程のカリキュラムは、学校教育教員養成課程と有機的に連携し、相互補完的な編成となっている。教育領域の科目等の充実は比較的容易である。一方、求められている医学関係科目の拡充は困難である。特に、医学部キャンパスと教育学部キャンパスが12kmの距離で隔てられており、実習を含めた医学関係の授業科目を提供することは困難である。
医学の素養の涵養という観点からは、心理援助職として活動するために身に付けさせるべき教育内容の拡大が避け難い。また、心理援助職の活動する職域の拡大という観点からは、多分野・多領域からなる心理援助職の養成を構想する必要がある。そして、教育範囲の広がりを踏まえ、学部教育と大学院教育の役割を明確にし、よどみなく体系性・接続性を持たせる必要があると考えられる。しかし、香川大学教育学部における心理援助職養成の現状は、大学院教育（教育学研究科修士課程学校臨床心理専攻における臨床心理士養成）に特化している。人間発達環境課程（発達臨床コース）は、心理援助職の基礎教育を提供してきた実績について評価できるとは言え、教育学部にあるが故に、学部教育と大学院教育の体系性・連続性に乏しく、両者の連携と役割分担が明確にされてきたとは言い難い。

以上を要約すると、これからの心理援助職養成における学部教育は、地域的な諸課題、心理学・臨床心理学の現況、医療・保健領域（職域）における需要の増大を重視したうえで、大学院教育との接続性も考慮しつつ構築していく必要がある。

（４）医学部に設置する必要性
社会的・地域的課題及びアンケート結果、医療・保健領域（職域）における需要増を踏まえ、心理援助職に新たに求められる能力は以下のとおりと考えられる。

A. 疾患・障害に関わる医学的知識を持つ。
　医師の診断や治療方針を理解し、クライエントの状態を見立てることができる臨床アセスメント能力
B. クライエントの家族等、周囲の人々との適切な関係の構築ができる。
　臨床的アセスメント能力に基づいた関係構築能力、援助的介入計画の立案能力
C. 自他の職種の機能・役割の明確な理解ができる。
　自他の職種の有用性・限界を理解し、連携・相互補完を行える能力

心理援助職の就労先は、医療・保健領域（職域）が最多であるにもかかわらず、医学的知識に乏しい心理援助職が養成されてきており、現状では心理的援助を必要とする患者や障害者への医学をベースとした理解は不充分である。また、様々なストレスに対する心身の反応が不適応症状を惹起することも少なくないが、このような心と身体の相互関係についてもこれまで臨床心理士を含めた心理援助職全般に対して十分に教育されてきたとは言い難い。

さらに、心理学・臨床心理学の教育研究の実績を活かすだけでなく、医学を始めとして社会福祉学や教育学といった諸分野を滞りなく連携させた教育課程の編成が必要と思われる。
また、必要性が叫ばれている他の職種との連携に関する教育研究についても、明確には既存の心理援助職の養成課程に反映されていない。特に、チーム医療への心理援助職の参画が求められている中で、今後、課題として明らかになるであろう、組織（チーム）の要請と心理援助職の専門職倫理の葛藤などの教育研究をも実施していく必要がある。

以上を踏まえて、香川大学では、全学的な大学改革の一環として、これまで教育学部に設置されていた人間発達環境課程発達臨床コースの成果・実績を継承・発展させるため、医学部に心理援助職の養成課程を設置する着想に至った。本計画では、心理援助職養成における学部教育の役割を明確にするという目的を踏まえ、医学部で心理援助職を養成することにより、医学的知識や医療現場での体験を有する、上記A～Cのような能力が求められている現代社会に適合した心理援助職を養成する。また、教育学部においては教育・福祉の領域（職域）に限定されがちであった教育内容を、医学部へ移行することにより、既存の領域を維持しつつその範囲を拡大させる。
医学部に臨床心理学科を設置することで、カリキュラム（教育）の面からは以下の特色を発揮できる。

１．専任教員８名（うち２名は医師）に加えて、多数の医学部・附属病院所属教員の参加により、専門の立場から基礎および臨床医学を幅広く教授することができる。

２．附属病院での見学実習、臨床心理士を含むさまざまな医療職者との交流、医学科・看護学科の学生を含むグループ学習などを通じ、医療現場における心理援助職の働きや役割、チーム医療・多職種連携の意義を学習する機会を提供できる。

３．「精神医学」、「心身医学」、「発達小児科学」などの授業科目により、就職後に遭遇する可能性の高い疾患や障害を幅広く教授することができる。併せて生命倫理に関する教育が可能である。

４．香川大学大学院医学系研究科（修士課程）に臨床心理学専攻を設置し（予定）、「臨床心理士」と「公認心理師」の資格取得に対応した６年一貫カリキュラムを策定することができる。

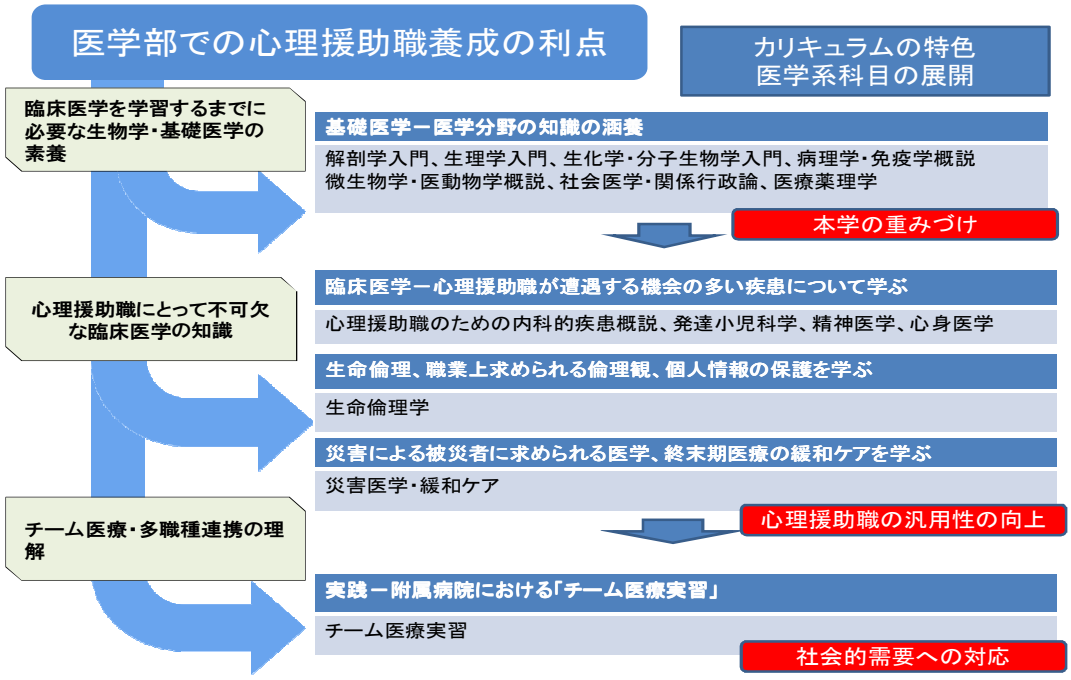

図3　医学部での心理援助職養成の利点（1）（カリキュラムの特色）

卒業生が医療・保健分野だけでなく、それ以外の領域に就職した際にも、医学を学んでいることで以下のような利点を有する。

１．教育分野への広がり：医学の素養をもった「スクールカウンセラー」が学校現場へ配置されると、深刻な問題を訴えるケースに対して精神医学的・心身医学的な観点を含めた心理アセスメントに基づいた学校内支援・調整、教育相談と医療機関との連携が容易になる。

２．福祉分野への広がり：医学の素養をもった心理援助職が福祉施設等に配置されると、知的障害、発達障害、うつ、認知症等の疾患理解がより容易となる。児童養護施設や障害児施設等においては、入所児の不適応や問題行動を、精神医学的・心身医学的な観点も踏まえて理解できるので、適切に児童に接したり、職員への支援を行ったりすることが期待される。

３．その他の分野においても、医学の素養をもった心理援助職が配置されると、心理学的な観点と共に医学的観点を踏まえて、対象者を理解、支援することが期待される。

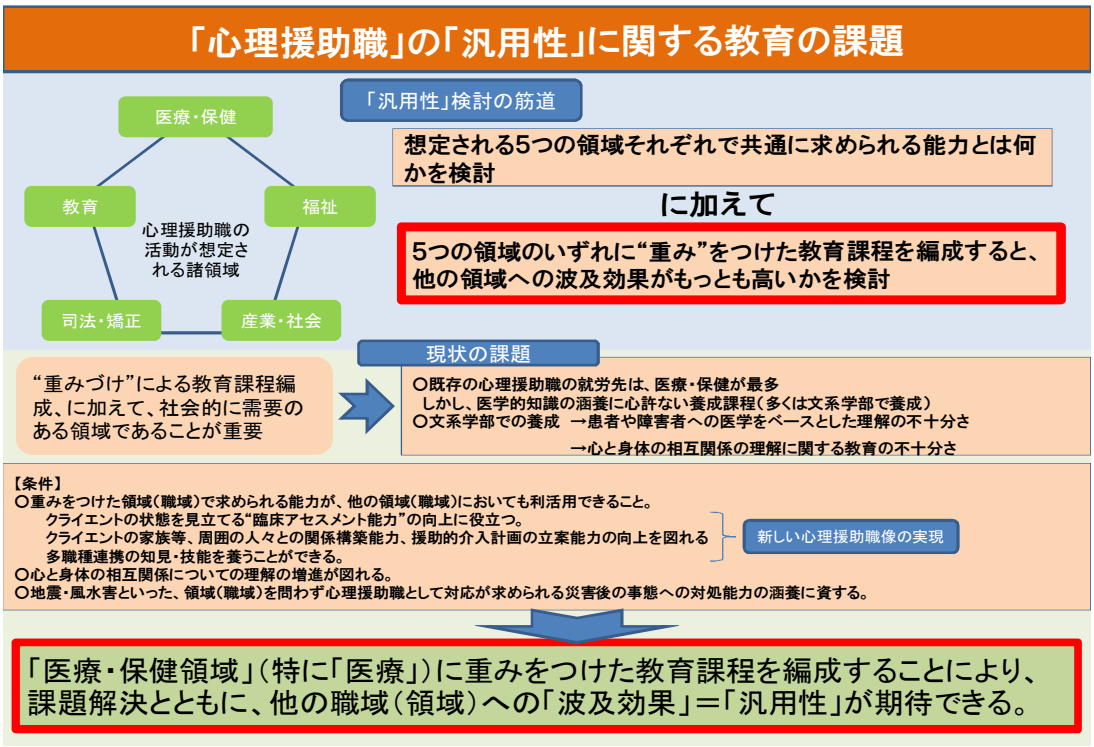

図4 「心理援助職」の「汎用性」に関する教育の課題

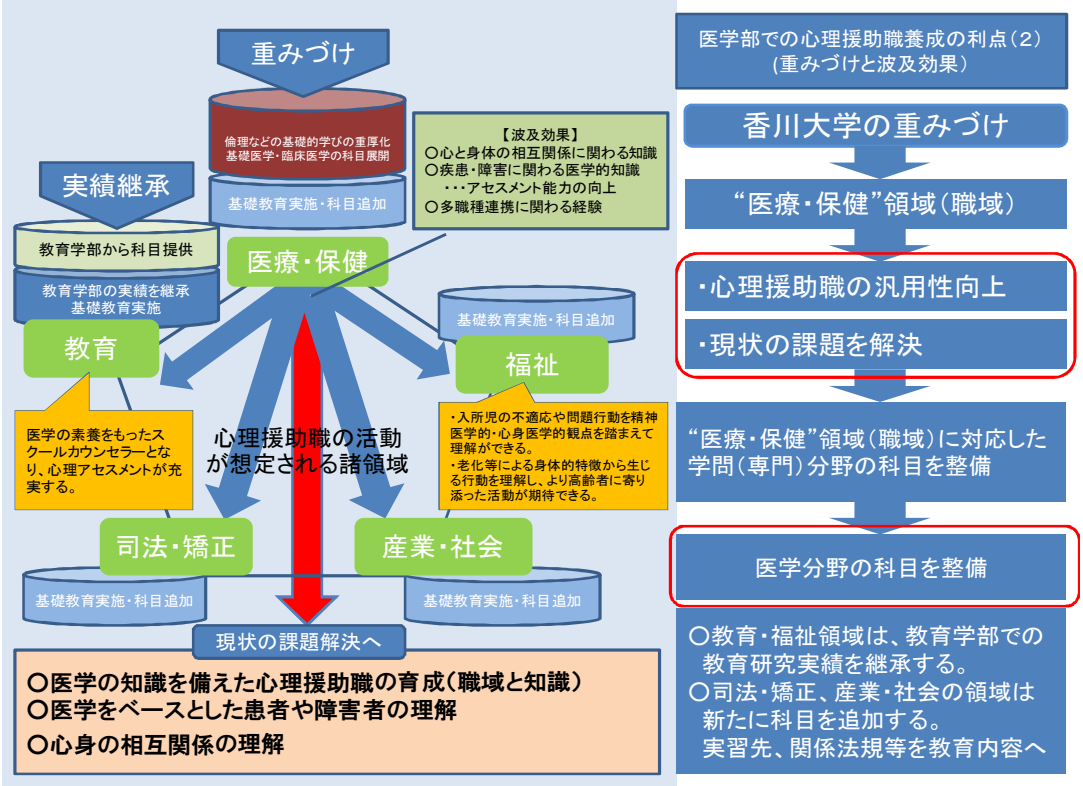

図5　医学部での心理援助職養成の利点（2）（重みづけと波及効果）

Ⅱ．教育課程編成の考え方・特色
設置する学科の名称及び学位は下記のとおりとする。

学科名称　医学部臨床心理学科
Department of Clinical Psychology, Faculty of Medicine

学位名称　学士（臨床心理学）
Bachelor of Clinical Psychology

（１）理念、養成する人材像及び習得させる能力等
医学部に臨床心理学科を設置するにあたり、その理念と養成する人材像及び習得させる能力等を下記のとおり定める。

（ア）基本理念
医学部では教育研究上の基本理念を以下のように定める。

１）世界に通ずる医学、看護学及び臨床心理学の教育研究を目指す。
２）人間性の豊かな医療人及び心理援助者、並びに医学、看護学及び臨床心理学の研究者を養成する。
３）医学、看護学及び臨床心理学の進歩並びに人類の福祉に貢献すると共に地域の医療及び心理援助の充実発展に寄与する。

（イ）養成する人材像
臨床心理学科における養成する人材像を以下に定める。

１）人間に対する高い倫理性と深い思考力をもった人間性豊かな心理援助者

２）自ら課題を探求し、それを解決できる基本的な専門知識と技能、科学的思考力と共感的理解力を備えた心理援助者

３）多職種連携・協働ができる資質を持ち、心理援助の実践を通して地域住民の福祉の充実発展に寄与すると共に、心理援助の発展に貢献する心理援助者

（ウ）習得させる能力等
臨床心理学科における習得させる能力等は以下の通りである。

１）人間と人間を取り巻く環境についての幅広い基礎知識の上に、心理学・臨床心理学の専門的知識と技能を修得する。

２）心理学・臨床心理学に加えて医学の基礎を学び、医療・保健分野を中心とした実習経験を積むことで、心理学・臨床心理学と医学を相互に関連付ける基本的技能と能力を修得する。

３）地域の相談者に対して傾聴する技能、共感的なコミュニケーションの技能、心の問題を説明する上での心理学・臨床心理学上の実証的な研究方法を修得する。

４）心理臨床における責任感と倫理観を身につけ、さまざまな人間の心の問題を理解し、多職種連携・協働の観点を踏まえつつ、適切な援助が出来る基本的技能と能力を修得する。

上記の養成する人材像に基づき教育課程を編成する。その教育課程は、結果として公認心理師の受験資格取得に対応する。

（２）科目区分の構成

授業科目は「全学共通科目」と「学部開設科目」に分かれる。また、後者を大きく「専門基礎科目」と「専門科目」に分類した。さらに「専門基礎科目」を「基幹科目」と「関連科目」に、「専門科目」を「基幹科目」、「関連科目」、「課題研究」に分類した。「専門基礎科目」と「専門科目」を通して「基幹科目」は、心理援助職養成の基礎となり、医療分野等で活躍する心理職として身に付けておくべき知識・技能を養成する科目を指し、学問分野別には心理系、医学系、社会学系からなる。「関連科目」は、医学系科目の一部と教育学系科目からなり、医学系の「関連科目」では、医療分野で活躍する心理援助職養成に必要な生物学的心理学的科目群（身体・脳・薬物療法関係）を設定し、医学部の兼担教員が担当する。教育学系の「関連科目」については、２科目を設定し、教育学部教員から提供を受ける。そして、「課題研究」によって卒業論文を作成する。教育学系の２科目を除いたすべての科目を必修科目として設定した。

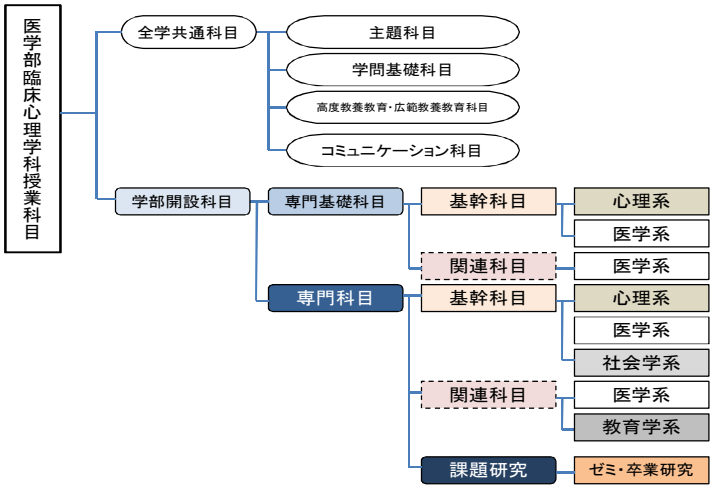

図6　科目区分表

（３）教育課程の特色

（ア）心理学・臨床心理学の体系的学習

本学科では、心理学及び臨床心理学の専門性を担保するために4年間を通じて心理系科目を提供するにとどまらず、医学系科目、教育学系科目、社会学系科目を含めた授業科目全体を段階的に学べるように配慮する。特に、心理学・臨床心理学の各論としての、基礎心理学、発達・教育心理学、社会・産業心理学、臨床心理学の各分野の専門科目の連動性を高めた。

まず、学位との整合性及び専門性の担保として、教育学部人間発達環境課程での心理学・臨床心理学の体系を引継ぎながらも強化し、さらに、職域に応じた科目の追加を行った。心理検査や心理アセスメント、人格理解のための理論や考え方、カウンセリングの考え方は従前のとおり学ばせる。

心理学・臨床心理学を学ぶ上での専門基礎科目を設定した。基礎心理学の分野を設定することで、基礎的・実証的な心理学を学ばせる。また、最近の脳科学研究についても学ばせる。

教育領域（職域）での心理援助職養成の実績を引継ぎ、発達・教育心理学分野を維持し、教育心理学の基礎的な理論、学校教育において教育心理学が果たす役割の理解を促す。

地域での多職種連携においては、社会や地域を視野にいれたコミュニティ心理学の発想、対人関係や集団の理解の重要性・需要を踏まえて、社会心理学や産業心理学の分野を設定した。産業領域においては、うつや不適応などの心理的課題と組織の力動を踏まえた産業カウンセリングについて学ばせる。

心理援助職の職域の拡大に対応して、福祉領域における心理の理解と本人や家族への心理的援助について学ぶ「福祉心理学」、司法・矯正領域における犯罪者や非行少年等の理解と心理的援助について学ぶ「司法心理学」を開設する。さらに、身体障害、知的障害、精神障害等の概要及び支援、障害者（児）や高齢者等の心理社会的課題と支援について学ぶ「障害者（児）心理学」を開設する。

以上のように、心理学と臨床心理学を体系的に学ぶことによって、問題の理解に有用な統合的な支援を患者やクライエントに提供することができる。また、ネットワークづくり・コミュニティづくりの視点からクライエントや患者を支援することができる人材を養成することができる。

科目編成では、実証的・基礎的な心理学を、臨床心理士資格を有する教員が担うことによって、基礎的な心理学と臨床心理学の間をつなぎ、患者やクライエントの心理の理解と支援に役立つような基礎としての心理学を学生に提供することを意図している。

（イ）心理学・臨床心理学と医学を融合させたカリキュラム

教育課程の特色の第２として、心理学・臨床心理学と医学を融合させたカリキュラムを構成している点がある。心理学・臨床心理学の体系的学習と並行して、医学的素養を身に付けるための一連の医学系科目を開講する。それらは、医学部既設学科の既存の授業科目を受講するという形ではなく、心と体に関わる医学的知識について、心理援助職を目指す者に必要な内容を教授する臨床心理学科の学生向けに特化した授業科目として新たに設定した。始めに臨床医学の基礎となる基礎医学を学ばせ、次に心理援助職が遭遇する機会の多い疾患・障害について学ぶ。生命倫理、職業上求められる倫理観、個人情報の保護なども学習させる。また、災害による被災者に求められる医学と、がん患者や慢性疾患の患者の緩和ケアについて心理援助職に必要な入門的内容も学ぶ。医学系科目では医師の資格を有する２名の専任教員に加えて、多数の医学科・附属病院の教員がオムニバス形式で授業を担当する。

また、教育学系科目を維持することにより、教育領域（職域）において心理援助職に必要とされている教育の素養を学ぶことができる。また、学校場面での発達障害児を含めた子どもの心理学を対象として、学校場面に必要な「児」について詳しく学べる。大学院進学後、臨床心理士などの資格を取得し、スクールカウンセラーになるための教育領域での基礎的知識を得ることができる。

さらに、公衆衛生に加えて医療・保健・福祉・産業などの領域の法律、制度及び社会福祉の基礎を学ぶことができる。

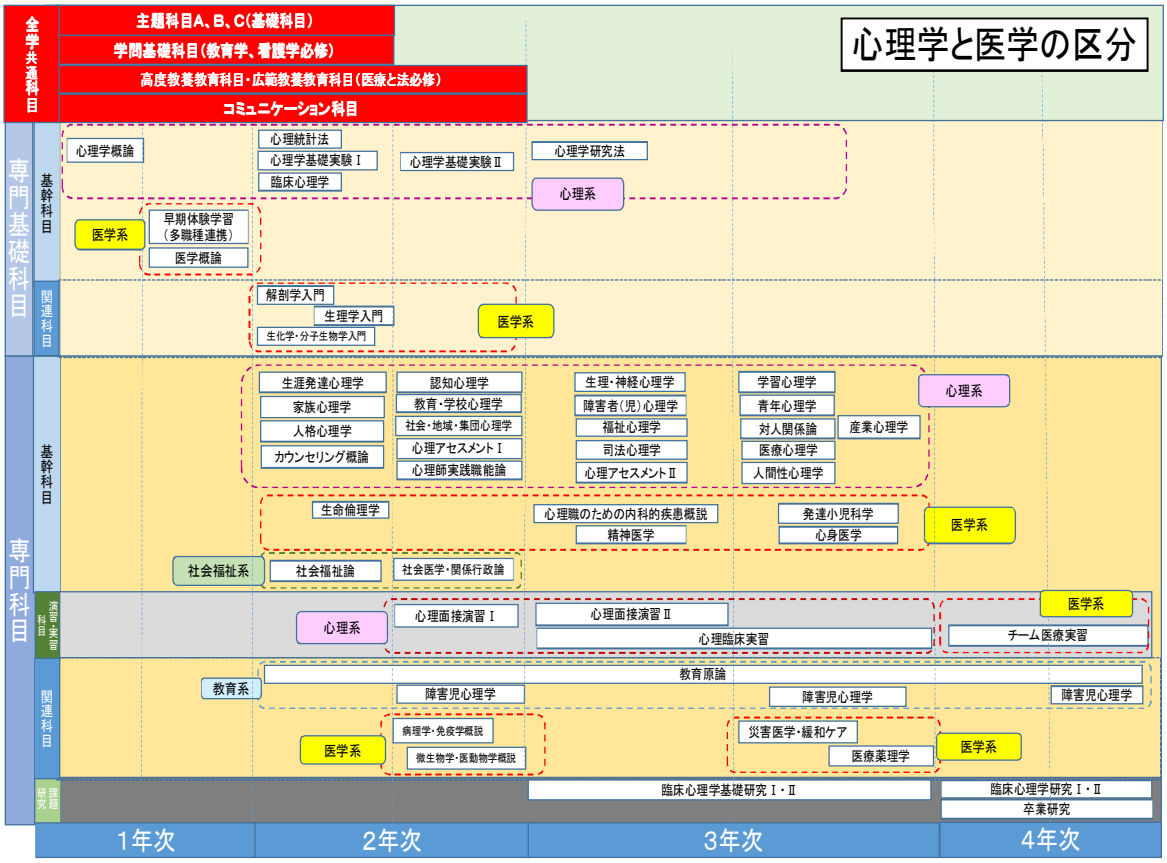

図7　年次進行表

（ウ）多様な演習・実習科目の体系的展開

教育課程の特色の第３として、心理援助職としての基礎的実践力を涵養するための初年次から卒業年次までにわたる多様な演習・実習科目の体系的な展開がある。すなわち、座学だけではなく、さまざまな演習科目と実習科目を設定して、段階を踏みながら心理援助職の役割の理解やその共感的なコミュニケーションを身に付けさせると共に、心理援助職としての自己理解を深めさせる。そのために、１年次の早期体験学習にはじまり、２・３年次の演習科目及び地域施設・機関実習、４年次のチーム医療実習に至る一貫した「現場と講義・演習の往還」による教育を行う。

１年次の後期の段階では、専門基礎科目として「早期体験学習（多職種連携）」を設定し、医学科と臨床心理学科の学生が地域のプライマリ・ケアを担う病院・診療所や高齢者介護福祉施設などを見学して、良い意味でのリアリティ・ショックを与えて、それについて両学科の学生が一緒に考える場を持つ。そこでは、専門分野を超えて、それぞれの専門や分野の課題を共通認識し、見学で得られた一つの事例に対して意見を述べ合い、専門に応じた見方や感じ方の違いと共通性を素朴に感じとり、患者やクライエントを多面的に理解して支援する多職種連携の重要性を実感する最初の機会としたい。

２・３年次では、「対人関係論」「心理師実践職能論」「心理面接演習Ⅰ」「心理面接演習Ⅱ」などを設定して、外部施設実習の前の段階において人と人の関わり方、心理面接における基礎的コミュニケーション、医療・福祉・司法の施設についての基礎的知識や関係法規等を身に付けさせる。「対人関係論」ではグループワークを中心とした演習を行う。「心理師実践職能論」では、心理援助職に関する概説を学習したうえで、児童相談所、家庭裁判所、少年鑑別所、精神科病院などの外部施設を見学する。その見学では、各施設の職員から施設概要や関係法規、各施設の相談内容、心理援助職の働き方、チーム連携などについて学習する。見学の前後に、事前指導、事後指導を実施して、見学で体験して得た知識の体系化、自己の問題の探求を行う。「心理面接演習Ⅰ」は、クライエント理解や心理面接でのコミュニケーション、心理援助職としての自己理解についての机上訓練である。「心理面接演習Ⅱ」においては、学生同士のロールプレイとその逐語録を用いたグループ討議（１グループ10名程度の小グループで、２グループにて実施）によって、心理面接について丁寧な段階を踏んだ学習を進める。

３年次の「心理臨床実習」においては、児童養護施設（福祉領域）、障害児・者施設（福祉領域）、児童発達支援センター（福祉領域）、適応指導教室（教育領域）などの施設・機関において、その入所者と直接関わる実習を行う。この実習は、事前指導、実習、事後指導から構成される。施設入所者は様々な課題を抱えており、その複雑な心理について、見学や座学を踏まえて、自己の体験を内省化し、さらには、学生同士の意見を交流させることや現場の職員からの助言などを通して、よりバランスの取れた入所者の理解と関わり、入所者にとって有益な理解の視点を考えていく。また、心理援助職としての自己理解について深める。さらには、入所者をめぐる現代社会の在り方にまで言及して、社会全体に資する心理援助職の役割についても「現場」から考える。実習中は、児童指導員や心理援助職、児童相談所の心理判定員などから指導を受ける。

４年次の「チーム医療実習」では、4名を1グループとして（計5グループとなる）、附属病院の精神神経科（外来・病棟）、総合内科、小児科、腫瘍センター、緩和ケアチーム等の診療科での実習を行うことを通して、またその後の実習振り返りにおいて、患者やクライエントへの包括的な支援のための多職種連携の必要性を実感させる。

心理援助職に求められる倫理に関しては、「生命倫理」で基本的理念を学び、「心理師実践職能論」で倫理の実際についてとりあげる。心理援助職の倫理は、専門性と表裏一体をなしている。クライエントとの関係を守りつつ多職種連携によって支援環境を整える専門性が求められる。このような心理援助職の専門性についても議論を深めていく。

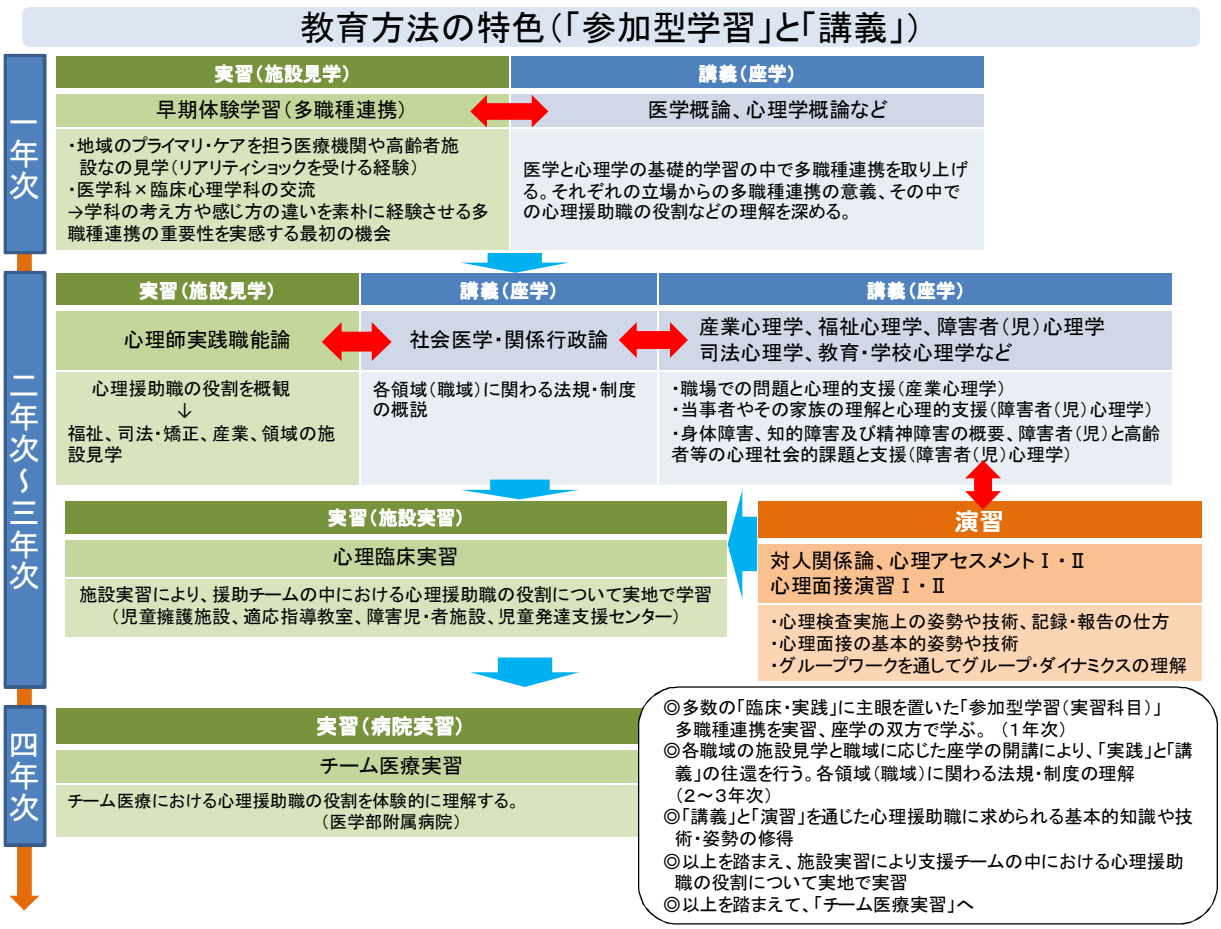

図8　教育方法の特色（「参加型学習」と「講義」）

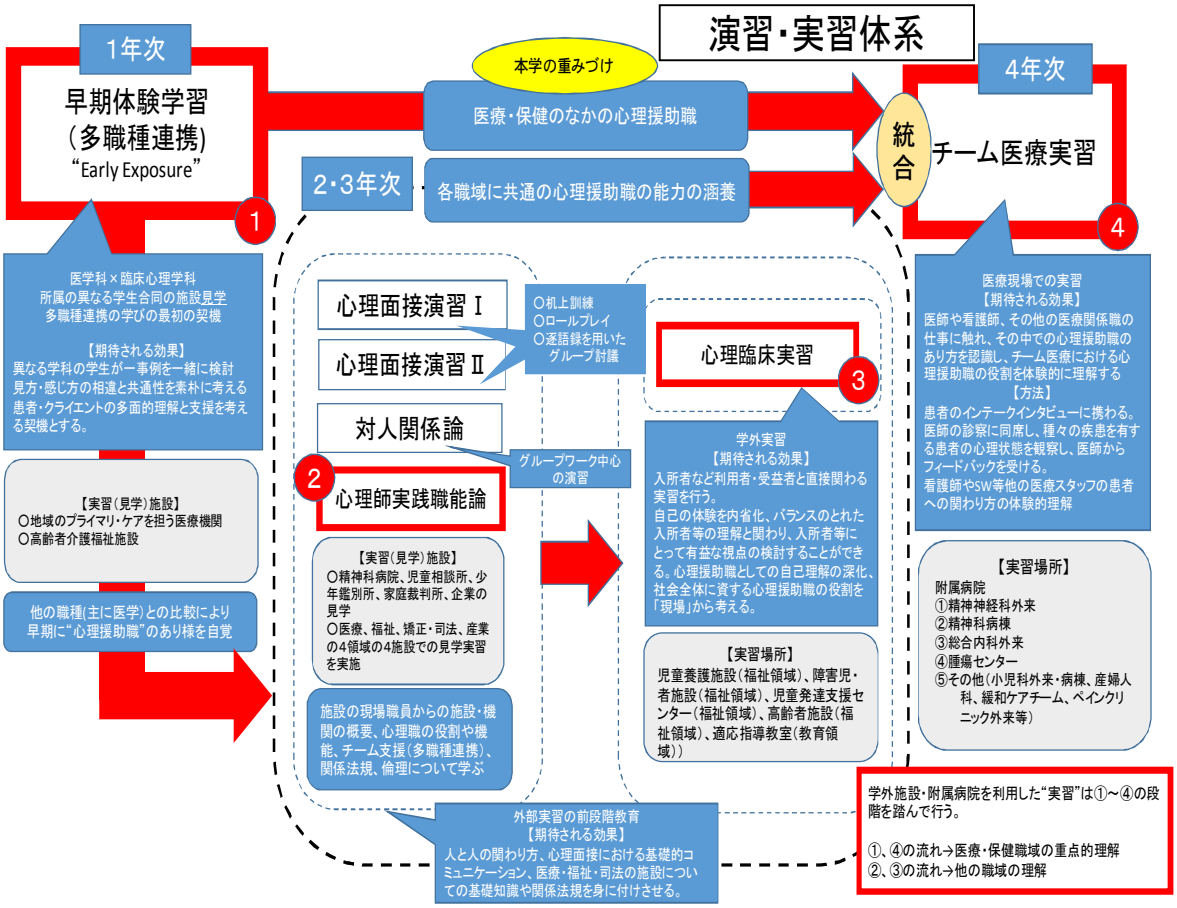

図9　演習・実習体系

各実習の具体的計画立案のため、実習先の確保、実習先との契約締結、実習水準の確保のための具体的方策、実習先との連携体制、事前・事後における指導計画、適切な担当教員の配置や巡回指導計画、実習先での指導者の配置、成績評価体制・単位認定方法の各項目を定め、調整を行った。これらの厳密な維持・管理のため、施設等との密な連絡を継続する。

実習先選定の特色として、教育学部人間発達環境課程での実習施設の継続利用（２・３年次の実習）、医学部附属病院の利用（４年次の実習）、医学科が利用している医療・保健領域（職域）の実習施設等の共同利用（１年次の実習、医学科との相互乗り入れ）を挙げることができる。２年次の見学実習では、人間発達環境課程での実習において確保している施設に加えて、新たに、産業領域、司法・矯正領域の各施設と契約（ただし、司法・矯正領域は国の施設であるため、書面による契約締結はできず、見学受入の了承を得たにとどまる）を締結した。３年次の実習でも、人間発達環境課程の実習で既に実績のある施設と契約を結び直し、実習の受入を継続し、実際に入所者等と接触する実習の実施にあたっては、「実習連絡協議会」を設置し、実習水準の確保を含めた連携体制を構築する。

（４）指導体制

臨床心理学科に、８人の専任教員を配置する。教員対学生比は、1対2.5となっており、少人数教育によるきめ細かな指導体制となっている。教員配置の考え方として、既に香川大学教育学部に在籍し、実績のある教員を医学部へと異動させるとともに、卒業生の多くが公認心理師資格・臨床心理士資格の取得を目指すことを想定し、附属病院をはじめ医療機関での実習等、カリキュラム充実のために必要となる教員を新たに採用した。

なお、教育学部人間発達環境課程は平成30年度入試での募集停止を公表しており、同課程発達臨床コースに所属する臨床心理系授業担当教員は医学部に異動する予定である。平成29年度以前に入学した学生への同コースでの教育については、異動予定の教員が廃止まで授業科目を引き続き担当することになるが、開講時間の調整を行うことにより、支障を生じさせないようにする。

また、同学部の学校教育教員養成課程の心理系授業担当教員は、臨床心理学科設置に伴う異動の対象ではないため、同課程の心理系授業科目は、改組前と同等に維持する。

（５）卒業後のイメージ

以上のような教育を経た臨床心理学科卒業生の多くは、さらなる高度な専門性を求めて臨床心理学系の大学院に進学すると予想される。医療・保健、教育、福祉、司法・矯正、産業・社会の各分野での心理援助職の活動の基礎的学びを経て、さらに、医学の素養と医療の視点を持った学部卒業生は、医療・保健分野にとどまらず、教育分野ではスクールカウンセラー等として、福祉分野では、児童擁護施設や児童相談所、障害児・者施設、地方自治体等の行政機関で、更には少年鑑別所や家庭裁判所といった司法分野などで、他の教育課程卒業生とは異なる職員として活躍が予想できる。

（６）受験者に対する配慮

本学科が養成を目指す「医学の素養を持った心理援助職」という表現について、受験対象者等の理解をより容易にするため、取得可能な資格や進路等を具体的に示す。その周知の方法として、アドミッションポリシー（AP）を以下のとおりとする。新たに定めたAPは、ホームページや、入試説明会、入学者選抜要項や募集要項において明示し広く周知する。

アドミッションポリシー(AP)

本学科は、「医学の素養を有した心理援助職」の養成を目指して医学部に設置されます。医師・看護師等の医療職の受験資格の取得を目的とした学科ではありませんが、心理学と医学を融合させ、さらに、保健医療分野を中心としながら、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野での実習・演習科目を含めたカリキュラムを展開し、保健医療に留まらず幅広い分野で、心理学的理解と支援に役立つ教育を行います。

卒業後に取得可能な資格は、認定心理士、児童指導員（任用資格）、心理判定員（任用資格）です。職種としては、少年鑑別所法務技官（心理技官）、家庭裁判所調査官、児童相談所児童心理司、児童養護施設の児童指導員などが想定されます。加えて、本学科卒業後に心理系の大学院修士課程に進学し、課程を修了すれば公認心理師（国家資格）・臨床心理士（日本臨床心理士資格認定協会）の受験資格が得られます。本学科のカリキュラムには公認心理師の受験資格を取得するために必要な科目等を含みます。

これらを踏まえて、大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。

①知識・技能

＊高等学校等における幅広い学習に裏付けされた知識・技能の総合力と学ぶ力

②思考力・判断力・表現力

＊人間の心理を深く理解し支援するための論理的思考力や判断力、根拠に基づいた科学的思考力や批判的思考力

＊多面的な視点から思考し、自分の考えを他者にわかりやすく伝える表現力

③主体性・多様性・協働性

＊主体的に多様な他者とかかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力

＊他者の気持ちを敏感に感じ取る感受性や共感的コミュニケーション能力

④関心・意欲・態度

＊心理的援助に高い志と強い関心を持ち、継続して意欲的に課題に取り組むことができる能力

＊人間尊重の態度や深く温かい眼差しを持ち、他者との関わりを通して、自己理解を深め、自らの潜在的な資質を成長させようとする意欲

＊大学卒業後もさらに高度な心理的援助の実践力を身につけ、心理援助者として、地域に貢献し、社会に役に立ちたいという意欲

⑤倫理観・社会的責任

＊人間の健康、適応、成長に関わる心理援助者として、また社会の構成員としての自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全学共通科目 主題科目（主題A、B、C）８単位以上 学問基礎科目（文系科目）６単位以上 学問基礎科目（理系科目）４単位以上 高度教養教育科目・広範教養教育科目２単位以上 大学入門ゼミ２単位 情報リテラシー２単位 既修外国語６単位以上 初修外国語４単位以上 健康スポーツ実技２単位 合計　36単位以上 学部開設科目 専門基礎科目19単位 専門科目79単位以上 合計　98単位以上 総計　134単位以上	１学年の学期区分	2学期（ただし、各学期を前半及び後半に区分する）
	１学期の授業期間	15週（ただし、前半及び後半を区分する）
	１時限の授業時間	９０分

（別添２－２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（教育学部人間発達環境課程）【既設分】

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
全学共通教育科目	主題科目	「人生とキャリア」主題A	人生とキャリア	1･2･3前	2			○								兼10	
			小計（1科目）		2	0	0				0	0	0	0	0	兼10	
		「現代社会の諸課題」主題B	歴史のなかの21世紀	1･2前･後		2		○			1					兼7	
			グローバル社会と異文化理解	1･2前･後		2		○								兼8	
			情報とコミュニケーション	1･2前･後		2		○								兼5	
			文化と科学・技術	1･2前･後		2		○			1					兼19	
			生命と環境	1･2前･後		2		○								兼12	
			人間と健康	1･2前･後		2		○			2					兼9	
			小計（6科目）		0	12	0				4	0	0	0	0	兼52	
		「地域理解」主題C	主題Ｃ-講義型科目	1･2前･後		2		○			1					兼13	
			主題Ｃ-実践型科目	1･2前･後		2				○	1					兼14	
			小計（2科目）		0	4	0				2	0	0	0	0	兼21	
	学問基礎科目		書物との出会い－学問することの喜び	1･2前		2		○				1				兼9	
			自然科学基礎実験	1･2後		2				○						兼1	
			哲学	1･2前･後		2		○			1					兼1	
			論理学	1･2前		2		○				1					
			倫理学	1･2後		2		○								兼1	
			芸術	1･2前		2		○								兼3	
			心理学	1･2前･後		2		○								兼4	
			社会学	1･2前･後		2		○								兼3	
			教育学	1･2後		2		○								兼1	
			歴史学	1･2前･後		2		○			1					兼2	
			文学	1･2後		2		○								兼1	
			言語学	1･2前		2		○								兼1	
			法学	1･2後		2		○								兼3	
			政治学	1･2後		2		○								兼1	
			経済学	1･2前		2		○								兼1	
			経営学	1･2前		2		○								兼1	
			数学	1･2前		2		○								兼12	オムニバス
			地学	1･2前		2		○								兼1	
			地学実験	1･2後		2				○						兼3	
			物理学	1･2前･後		2		○								兼8	
			物理学実験	1･2前		2				○						兼3	
			化学	1･2前･後		2		○			1					兼5	
			化学実験	1･2前		2				○	1					兼2	
			生物学	1･2前･後		2		○								兼5	
			生物学実験	1･2前		2				○						兼2	
			地理学	1･2前		2		○								兼1	
			統計学	1･2前		2		○								兼1	
			情報科学	1･2後		2		○								兼2	
			医学	1･2後		2		○								兼12	オムニバス
			看護学	1･2前		2		○								兼5	
			小計（30科目）		0	60	0				4	2	0	0	0	兼87	

コミュニケーション科目	大学入門ゼミ	大学入門ゼミ	1前	2				○		1	3					
		小計（1科目）		2	0	0				1	3	0	0	0		
	情報リテラシー	情報リテラシー	1･2前	2			○									
		小計（1科目）	－	2	0	0				0	0	0	0	0		
	既修外国語（英語）	Communicative English Ⅰ	1前		2			○							兼9	
		Communicative English Ⅱ	1後		2			○							兼9	
		Communicative English Ⅲ	2前		1			○							兼13	
		Communicative English Ⅳ	2後		1			○							兼13	
		Intensive English Ⅰ	1前		2			○							兼2	
		Intensive English Ⅱ	1後		2			○							兼2	
		Academic English Ⅰ	3前		1			○							兼1	
		Academic English Ⅱ	3後		1			○							兼1	
		小計(8科目)		0	12	0				0	0	0	0	0	兼35	
	初修外国語	ドイツ語Ⅰ	1前		2			○							兼2	
		ドイツ語Ⅱ	1後		2			○							兼2	
		ドイツ語Ⅲ	2前		1			○							兼6	
		ドイツ語会話	2前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅰ	1前		2			○							兼4	
		フランス語Ⅱ	1後		2			○							兼4	
		フランス語Ⅲ	2前		1			○							兼2	
		フランス語会話Ⅲ	2前		1			○							兼2	
		中国語Ⅰ	1前		2			○							兼7	
		中国語Ⅱ	1後		2			○							兼7	
		中国語Ⅲ	2前		1			○							兼4	
		中国語会話Ⅲ	2前		1			○							兼1	
		中国語速修Ⅰ	1前		1			○							兼1	
		中国語速修Ⅱ	1後		2			○							兼1	
		中国語速修Ⅲ	1後		1			○							兼1	
		中国語応用演習Ⅰ	1後		1			○							兼1	
		中国語上級「聴解」	2前		1			○							兼1	
		中国語応用演習Ⅱ	2前		1			○							兼1	
		中国語応用演習Ⅲ	2後		1			○							兼1	
		中国語上級「写作」	2後		1			○							兼1	
		中国語上級「読解」	3前		1			○							兼1	
		韓国語Ⅰ	1前		2			○							兼2	
		韓国語Ⅱ	1後		2			○							兼3	
		韓国語Ⅲ	2前		1			○							兼3	
		韓国語会話Ⅲ	2前		1			○							兼3	
		小計（25科目）	－	0	34	0				0	0	0	0	0	兼16	
	健康・スポーツ実技	健康・スポーツ実技	1･2前		1				○						兼3	
		小計（1科目）		0	6	0				0	0	0	0	0	兼35	
	高学年向け主題科目	瀬戸内の環境と保全	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		防災ボランティア講座	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		防災ボランティア実習	1･2･3･4後		2				○						兼3	
		医療と法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		小計（4科目）		0	8	0				0	0	0	0	0	兼8	

	高学年向け教養科目	キャリアデザイン実践講座	キャリア・デザイン実践講座	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（1科目）		0	2	0				0	0	0	0	0	兼1	
		上級英語	Study Abroad	1･2･3･4前		2		○								兼4	
			小計（1科目）		0	2	0				0	0	0	0	0	兼4	
		西洋古典語	ラテン語初歩Ⅰ	1･2･3･4前		1		○								兼1	
			ラテン語初歩Ⅱ	1･2･3･4後		1		○								兼1	
			ギリシア語初歩Ⅰ	1･2･3･4前		1		○								兼1	
			ギリシア語初歩Ⅱ	1･2･3･4後		1		○								兼1	
			小計（4科目）		0	4	0				0	0	0	0	0	兼4	
教育学部人間発達環境課程（発達臨床コース）【既設分】																	
専門科目 基礎		学部共通	発達支援論	1前	2			○			1						
			小計（1科目）		2	0	0				1	0	0	0	0		
基礎研究		発達と環境	人間発達環境入門演習	1後	2				○			1					
			生涯発達心理学	2後		2		○				1					
			コミュニケーション論	2前		2		○								兼1	
			人間環境学Ⅰ	2前		2		○								兼1	
			国際社会論	2後		2		○			1						
			多文化共生論	2前		2		○			1						
			人間環境学Ⅱ	2後		2		○				1					
			小計（7科目）		2	12	0				2	3	0	0	0	兼2	
		発達臨床の基礎（課程共通）	臨床心理学	2・3後		2		○			1						
			学校教育心理学	1後		2		○								兼3	
			カウンセリング概論	2前		2		○			1						
			関係発達論	2前		2		○			1						
			社会福祉原論	2後		2		○								兼1	
			児童福祉論	2前		2		○								兼1	
			教育臨床心理学	2後		2		○								兼1	
			学習心理学	2後		2		○								兼1	
			小計（8科目）		0	16	0				3	0	0	0	0	兼7	
実践研究		実践研究	発達臨床実践研究Ⅰ	2通	2					○	3	1					1
			発達臨床実践研究Ⅱ	3通	2					○	3	1					2
			小計（2科目）		4	0	0				6	2	0	0	0		
			青年心理学	2前		2		○								兼1	
			生活発達論	2後		2		○								兼1	
			乳児心理学Ⅰ	2前		2		○								兼1	
			心理学史	3前		2		○								兼1	
			教育心理学演習Ⅰ	3前		1			○							兼3	
			教育心理学演習Ⅱ	3後		1			○							兼3	
			心理学実験Ⅰ	2・3前		1				○						兼1	
			心理学実験Ⅱ	2・3後		1				○						兼1	
			心理検査Ⅰ	2前		1				○		1					
			心理検査Ⅱ	2後		1				○		1					
			教育統計学	2前		2		○								兼1	
			性格心理学	2・3後		2		○								兼1	
			社会心理学	2・3後		2		○								兼1	
			臨床心理学演習Ⅰ	2前		1			○		1						

発展研究	発達臨床の応用	臨床心理学演習Ⅱ	2後		1			○		1						
		生物共生システム論	3前		2		○								兼1	
		臨床心理学実習Ⅰ	3前		1			○		1						
		臨床心理学実習Ⅱ	3・4後		1			○		1						
		障害児医学・生理学	3前		2		○								兼1	
		障害児心理学	2後		2		○								兼1	
		障害児心理アセスメント論	3前		2		○								兼1	
		高齢者福祉論	2前		2		○								兼1	
		地域福祉論	2後		2		○								兼1	
		小児発達論	3前		2		○								兼1	
		保育指導論	3前		2		○								兼1	
		発達小児科学	3後		2		○								兼1	
		医学概論	2後		2		○								兼1	
		発達障害児の教育と心理・生理	2後		2		○								兼4	
		生徒指導論Ａ	1後		2		○								兼1	
		生徒指導論Ｂ	2前		2		○								兼1	
		こども・若者論	2・3後		2		○			1						
		メディア論	2・3後		2		○								兼1	
		家族福祉論	2・3後		2		○								兼1	
		健康論	2・3後		2		○								兼1	
		芸術環境論	2・3後		2		○			1						
		美術理論	2・3前		2		○								兼1	
		地域居住論	2・3後		2		○			1						
		生死文化論	2・3後		2		○								兼1	
		生命と倫理	2・3後		2		○			1						
		ジェンダー論	2・3後		2		○								兼1	
		異文化間コミュニケーション論	2・3後		2			○							兼1	
		世界の言語と文化Ⅰ	2・3・4前		1			○							兼1	
		世界の言語と文化Ⅱ	2・3・4後		1			○							兼1	
		運動処方	2・3前		2		○								兼1	
		発育・発達論	2・3後		2		○								兼1	
		福祉住環境論	2・3後		2		○								兼１	
		小計（46科目）		0	80	0				8	2	0	0	0	兼43	
	特別演習	発達臨床演習Ⅰ	3前	2				○		3	1					
		発達臨床演習Ⅱ	3後	2				○		3	1					
		発達臨床特別演習	4通	2				○		3	1					
		小計（3科目）		6	0	0				9	3	0	0	0		
	卒業研究	卒業研究	4通	4						3	1					
		小計(1科目)		4	0	0				3	1	0	0	0		
教育学部人間発達環境課程（人間環境教育コース）【既設分】																
専門科目	学部共通	発達支援論	1前	2			○			1						
基礎		小計（1科目）		2	0	0				1	0	0	0	0		
	発達と環境	人間発達環境入門演習	1後	2				○			1					
		生涯発達心理学	2後		2		○				1					
		コミュニケーション論	2前		2		○								兼1	
		人間環境学Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		国際社会論	2後		2		○			1						

基礎研究		多文化共生論	2前		2		○			1						
		人間環境学Ⅱ	2後		2		○				1					
		小計（7科目）		2	12	0				2	3	0	0	0	兼2	
	人間環境教育の基礎	人間環境教育実践研究入門	2前	2				○		2	1					実習
		人間環境教育基礎演習	2後	2				○		5	2					実習
		物質環境論	2・3前		2		○			1						
		宇宙地球環境論	2・3前		2		○								兼1	
		家族・社会システム論	2・3前		2		○			1						
		経済文化論	2・3後		2		○			1						
		人間存在論	2・3前		2		○			1						
		生死文化論	2・3後		2		○			1						
		健康論	2・3後		2		○								兼1	
		造形基礎Ⅰ	2前		1				○						兼1	
		造形基礎Ⅱ	2後		1				○						兼1	
		芸術環境論	2・3後		2		○			1						
		シミュレーション物理	2・3後		2		○				1					
		小計（13科目）		4	20	0				13	4	0	0	0	兼4	
実践研究	実践研究	人間環境教育実践研究Ⅰ	2通	2					○	1	2					
		人間環境教育実践研究Ⅱ	3通	2					○	5	2					
		小計（2科目）		4	0	0				6	4	0	0	0		
発展研究	人間環境学特論	社会学Ⅰ	2・3後		2		○								兼1	
		数理情報論	2・3後		2		○								兼1	
		環境社会学	2・3後		2		○								兼1	
		生涯学習概論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		地域居住論	2・3後		2		○			1						
		生涯学習計画論A	2・3前		2		○								兼1	
		比較社会経済史論	3・4前		2		○			1						
		歴史環境論	3・4後		2		○			1						
		西洋文化史	2・3前		2		○			1						
		生命と倫理	2・3後		2		○			1						
		遊技文化論	2・3前		2		○								兼1	
		環境保全論	2・3・4前		2		○			1						
		データ解析論	2・3後		2		○								兼1	
		美術理論	2・3前		2		○								兼1	
		西洋史学	2・3前		2		○			1						
		哲学Ⅰ	2・3後		2		○			1						
		小計(16科目)		0	32	0				8	0	0	0	0	兼8	
	人間環境学関連科目	環境教育論	2・3・4後		2		○								兼1	
		ジェンダー論	2・3後		2		○								兼1	
		メディア論	2・3後		2		○								兼1	
		ボランティア活動	1～4		2				○	－	－	－				随時
		美術史Ⅰ	2・3後		2		○								兼1	
		美術史Ⅱ	2・3後		2		○			1					兼1	
		芸術表現	2・3後		2			○		1						講義
		基礎化学実験	2・3前		1			○		1					兼2	
		基礎物理学実験	2・3後		1			○							兼2	

		基礎地学実験	2・3後		1			○							兼3	
		基礎生物学実験	2・3前		1			○							兼2	
		家族福祉論	2・3後		2		○								兼1	
		古文書学概論	2・3後		2		○								兼1	
		言語文化論	2・3後		2		○			1						
		教育社会学	2後		2		○								兼1	
		生物共生システム論	3前		2		○								兼1	
		日本社会史論	2・3後		2		○				1					
		小計(17科目)		0	30	0				4	1	0	0	0	兼18	
	発展演習	教育環境デザイン演習Ⅰ	3前	2				○		5	2					
		教育環境デザイン演習Ⅱ	3後	2				○		5	2					
		教育環境デザイン演習Ⅲ	4前・後	2				○								
		共生社会システム演習１	3前	2				○		5	2					
		共生社会システム演習Ⅱ	3後	2				○		5	2					
		共生社会システム演習Ⅲ	4前・後	2				○		5	2					
		小計（6科目）		12	0	0				5	2	0	0	0		
	特別演習	人間環境教育特別演習	4後	2					○	5	2					
		小計（1科目）		2	0	0				5	2	0	0	0		
	卒業研究	卒業研究	4通	4						5	2					
		小計（1科目）		4	0	0				5	2	0	0	0		
教育学部人間発達環境課程(国際理解教育コース)【既設分】																
専門基礎科目	学部共通	発達支援論	1前	2			○			1						
		小計（1科目）		2	0	0				1	0	0	0	0		
基礎研究	発達と環境	人間発達環境入門演習	1後	2				○			1					
		生涯発達心理学	2後		2		○				1					
		コミュニケーション論	2前		2		○								兼1	
		人間環境学Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		国際社会論	2後		2		○			1						
		多文化共生論	2前		2		○			1						
		人間環境学Ⅱ	2後		2		○				1					
		小計（7科目）		2	12	0				2	3	0	0	0	兼2	
	国際理解教育の基礎	異文化コミュニケーション論	2・3後		2		○								兼1	
		英語圏の文学と社会	2・3前		2		○								兼1	
		人文地理学	2・3前		2		○			1						
		言語学概論	2前		2		○								兼1	
		日本語教育学概論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		小計(5科目)		0	10	0				1	0	0	0	0	兼4	
実践研究	実践研究	国際理解教育実践研究Ⅰ	2後	2				○		1						
		国際理解教育実践研究Ⅱ	3後	2				○		1					兼1	
		小計（2科目）		4	0	0				2	0	0	0	0	兼1	
		哲学Ⅰ	2・3後		2		○			1						
		地誌学	2・3後		2		○								兼1	
		地理学実習Ⅰ	2・3前		2				○	1					兼1	
		地理学実習Ⅱ	2・3・4前		2				○	1						
		日本社会史論	2・3後		2		○								兼1	
		西洋史学	2・3前		2		○			1						

発展研究	多文化社会と教育	東洋史学	2・3前		2		○								兼1	
		教育社会学	2後		2		○								兼1	
		教育原論	2後		2		○								兼1	
		人間存在論	2・3前		2		○			1						
		生命と倫理	2・3後		2		○			1						
		多文化社会演習	3前		2			○		1						
		異文化理解	2・3後		2			○							兼1	
		世界の言語と文化Ⅰ	2・3・4前		1			○							兼1	
		世界の言語と文化Ⅱ	2・3・4後		1			○							兼1	
		芸術環境論	2・3後		2		○			1						
		小計(16科目)		0	30	0				8	0	0	0	0	兼9	
	日本語文化と日本語教育	日本語学基礎概論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		日本語学基礎概論Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		日本語史	3前		2		○								兼1	
		日本語音声学	3前		2		○								兼1	
		日本語文法論	3・4前		2		○			1						
		日本語文字・表記論	3後		2		○								兼1	
		日本語語彙論	3・4前		2		○			1						
		日本語方言学	3前		2		○								兼1	
		社会言語学演習	3・4後		2			○		1						
		日本語方言演習	3前		2			○							兼1	
		音声学演習	3後		2			○							兼1	
		日本語教育学概論Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		日本語教材教具論	3・4前		2		○								兼1	
		日本語教育学演習	3後		2			○							兼1	
		日本語教育実習	4前・後		2				○	1					兼2	
		日本文芸文化論	2・3・4前		2		○								兼1	
		英文法	2前・後		2		○								兼1	
		英語史	2後		2		○								兼1	
		言語文化論	2・3後		2		○			1						
		英米の思想と文学	2・3後		2		○			1						
		米国散文Ⅰ	2・3後		2			○							兼1	
		米作文	3後		2			○							兼1	
		英語演習Ⅰ	2前		2			○							兼1	
		英語演習Ⅱ	2後		2			○							兼1	
		英語演習Ⅲ	3前		2			○		1						
		英語演習Ⅳ	3後		2			○		1						
		英会話	3前		2			○							兼1	
		英文学史	2・3後		2		○								兼1	
		米文学史	2・3前		2		○			1						
		英語音声学Ⅰ	2前		2			○							兼1	
		英語音声学Ⅱ	2後		2			○							兼1	
		小計（31科目）		0	62	0				9	0	0	0	0	兼24	
	発展研究	国際理解教育特別演習Ⅰ	3前	1				○		3						
		国際理解教育特別演習Ⅱ	3後	1				○		3						
		小計（2科目）		2	4	0				6	0	0	0	0		

	卒業研究	卒業研究	4通	4						3						
		小計(1科目)		4	0	0				3	0	0	0	0		
合計（274科目）				68	464	0				11	2	0	0	0	兼244	

学位又は称号	学士（教養学）	学位又は学科の分野	文学関係、教育学・保育学関係、社会学・社会福祉学関係